

U. G. 社会システム学科・3 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

コロナ禍で大学進学し、このまま何もせずに大学生活が終わることに追い目を感じるようになり、小さい時から海外ドラマや洋楽が大好きで、アメリカに興味があったことから留学を決意しました。

② 留学を目指してから出願までの語学学習方法

留学を決意してから提出締め切りまで 1 か月ほどしかなく、TOEFL の点数を上げるため、1 か月だけ英会話塾に通いました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

ビザは自分で手続きをしました。やり方を説明する You Tube などを見て手続きを進めました。自分で語学学校の手配をできる自信がなかったのと、4 回生次に単位を残しすぎたくなかったので、語学学校は大学から入学手続きができ、単位も認めてもらえる Chatham 大学を選びました。

④ 現地到着後

寮生活だったため、空港から大学寮までの送迎は、現地の大学の先生にいただきました。寮に着くまでの間は少し遠回りをして街を案内してくださいました。夜の街の景色を見ながら、アメリカに着いたんだなと実感して不思議な気持ちになったことを覚えています。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

アパートの部屋は広く、一人部屋もあったのでとても快適に過ごしていました。寮に着いたときにはすでに新品の枕や毛布が用意されていたので、困ることもありませんでした。

◆ 授業内容、課題、試験

・ ELI101 Academic Reading

指定の教科書を読み進めていく授業でした。

・ ELI110 Academic Lecture

・ ELI112 Research Papers

元は違う授業でしたが、担当の先生が同じだったことから同じ内容のことをしていました。Yale 大学の教授が開講している The science of well being をベースに授業が進みました。毎回のようにプレゼンがあり、ペースも早いため、予習・復習が大変でしたが、内容がとても面白く楽しい授業でした。

・ ELI193 US Culture Pittsburgh

Pittsburgh の歴史を学ぶ授業でした。プレゼンは、内容より発表力を評価されるもので、準備が大変でした。先生が面白く、また他の授業に比べて課題量も少なかったので毎回楽しく受けていました。この授業を通してこの街が大好きになりました。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

課題は図書館ですることが多かったです。寮の横にある塔は 24 時以降も空いていたので、日本の企業の面接や説明会があるときに利用していました。

◆ 履修科目

・ AS 106 Issues in Asia (I)

課題が多く、本を全て読んでレポートを書かなければならなかったのもとても大変でした。現地の学生が毎回の課題の度に助けてくれて、提出することができました。

・ BUAD 200 Management Principles (W)

この授業では、広くマネジメントについて学ぶことができました。日本でも経営学やマネジメントの授業も受けたことはありましたが、また違った視点での講義内容だったのが面白かったです。

・ BUAD 230 Marketing Principles

毎回小テストがあり大変でした。授業の途中で盛り上がると学生が次々に話し出して、聞き取れずついていけないこともありましたが、ビジネス専攻で自分の興味がある分野だったので受講しました。先生は自分で会社を経営していて、この授業のために大学に来ている方だったので、実際の企業についての話を聞くことができ面白かったです。

・ COMM 245 Social Media

定期的にあるプレゼンと提出物が少し負担でしたが、ソーシャルメディアを通してビジネスや、アメリカの文化を学ぶことができ楽しかったです。

・ COMM 280 Intercultural Communication (I)

単純な異文化理解についてではなく、とても専門的な分野だったので難しかったです。ただ、現地生の中でも出身国や出身地域が違う学生が沢山いたので、色々な意見を聞くことができ面白かったです。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

特にしていません。

⑧ 現地ででの住まいについて

当時 Chatham 大学はホームステイか寮か選べましたが、寮の方が安く済むと聞いたので寮を選びました。(現在は寮のみ。) 自炊だったことが大変でしたが、近くにスーパーがいくつかあり、自分の好きなものを好きな時間に食べることができたのでよかったです。寮のすぐ目の前にバス停がありとても便利でした。Mary Baldwin 大学の食堂は段々とアメリカのものに飽きてきて、食欲が湧かない時はサラダしか食べられず、少し痩せました。お寿司やラーメンが出ることもあったのはとても嬉しかったです。

⑨ 長期休暇の過ごし方

夏休みの 2 週間はロサンゼルス・アナハイム・ラスベガスを旅行しました。中間休みは留学

生みんなでシカゴに行きました。Thanksgiving day では、現地の方の家に 3 日間ほどホームステイさせてもらいました。授業が終わってから帰国までの期間は、フロリダ・ニューヨーク・サンフランシスコ・シアトルを旅行しました。州によって景色が全く違い、とても楽しかったです。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

11 月にボストンキャリアフォーラムに参加しました。ちょうど中間テストの時期と重なり大変でしたが、その後、運よく内定をいただくことができたので、参加してよかったと思っています。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学のプログラムが全て終わって保険の期間を延長し、一人でサンフランシスコ・シアトルを旅行しました。7 か月前は、一人で関西空港から国際線に乗ることも不安でいっぱいだったのに、自力で飛行機やホテルを手配して旅行している時は達成感があり、思い出に残っています。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

バージニアの Mary Baldwin 大学に移った直後は、偏頭痛がとてもひどくしんどかった上に、やっと Chatham 大学でできた友達と離れて生活することに寂しさを感じて辛かったことを覚えています。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

急にバスが止まったと思ったら、運転手がバスを停めて水を買に行っていたことに文化の違いを感じました。Chatham 大学で出会ったアフガニスタン出身のクラスメイトからは、タリバン政権の話や、彼が実際に経験した話を沢山聞くことができました。女性である自分が勉強できること、全く違う国に留学に来ていることのありがたさを強く感じました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

Chatham 大学：夏休み期間中だったので大学には現地の学生はいませんでした。同じ寮に住んでいる現地の学生はとても親切で、一緒に近くのイベントに行くこともありました。学生はバスが無料で乗れたり、祝日はダウントウンでよくイベントが行われていたり、寮の近くで音楽フェスをしていたり、住みやすく楽しいことがたくさんある場所でした。

Mary Baldwin 大学：想像していたよりも田舎で私にはしんどかったです。授業がない時間帯はよく外に出て遊んでいた Chatham 大学での生活と比べると退屈でしんどかったです。ですが、街の方はとても親切な方で、色んなところに連れてもらい色んな経験をさせてもらいました。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは持っていきました。普段から風邪をひくこともないので、薬などは持って行かなかったのですが、旅行先で体調が悪くなったときや、頭が痛くなった時のために薬を持って

行った方が良かったのかなと思います。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

全く話すことができない状態で行ったため、上達を感じています。留学前と後で一番変わったことは行動力や度胸がついたことです。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学期間中だけではなく、日本での準備期間からいろんな意味で勉強になることが多かったです。全てを通して楽しいことばかりではないとは思いますが、それも含めてとても濃い時間を過ごすことができ、自分の人生の幅を拓けるきっかけになるとと思います。頑張ってください！！

IV. 将来の目標

今後の進路、将来の目標・夢

もっと色々な国に行きたいと思うようになりました。もっとお金を貯めて、さまざまな世界の景色をみたいです。

V. 写真



7/4 アメリカの独立記念日はピッツバーグで過ごしました。一日中お祭り騒ぎで本当に楽しかったです！この写真は昼間からみんなが音楽に合わせて踊っているところで、映画の中にいるみたいでした。



サウジアラビア出身の留学生にナイアガラの滝に連れて行ってもらいました。1 日だけ国境を超えてカナダサイドから見ました。本当に綺麗でした。



韓国の留学生と、ワシントンで行われたチャーリー・プースのライブに行きました。みんな飲んで歌って楽しかったです。



テストが全て終わってからは、留学生 5 人でフロリダのディズニーに行きました。